

21 世紀の学校教育を支える

スクールカウンセリングとガイダンスカウンセラー

（ 不登校・いじめ・
非行等の
問題解決と予防 ）

+

（ 学業, 進路,
人格・社会性,
健康等の成長促進 ）

↓

スクールカウンセリング



JSCA

Japan School Counseling Association

一般社団法人

日本スクールカウンセリング推進協議会

【理事長】 國分康孝 (カウンセリング・サイコロジスト)



スクールカウンセリングとは

生徒指導，教育相談，進路指導・キャリア教育，

特別活動，道徳教育，特別支援教育を

一つの知識体系と技法体系にまとめあげた

教育方法のことです。

その原理と理論と方法と技法を提唱しているのが

日本スクールカウンセリング推進協議会です。

その代表的な資格に

「ガイドンスカウンセラー」があります。

* 2015 年 11 月の時点でガイドンスカウンセラーの資格取得者は約 3,500 名います。

ガイダンスカウンセラーとは

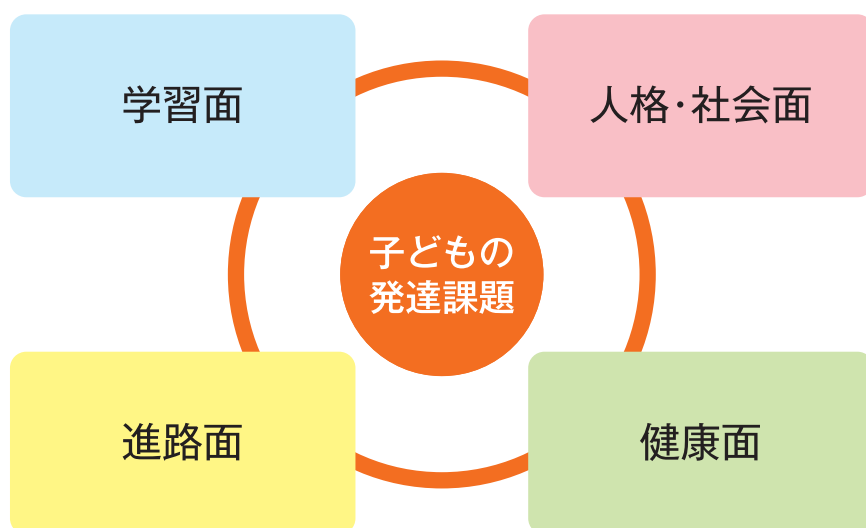
ガイダンス（英語 guidance）とは、教育学の言葉で「学校教育で、子ども自身が自己を理解してその能力を十分に発揮し、社会的にも有用な存在となりうるように援助する活動」を意味しています。現在、学校教育において不登校やいじめ、非行などに代表されるような様々な問題が発生しています。学校教育の半ばで、学校を離れていく子、人の道に反れる子、心身の健康を損なう子、自死を選ぶ子など、個人にとっても家庭や社会にとっても深刻な事態が起きています。

このような状況を改善するためには、子どもたちの成長・発達をめぐり学校教育の当事者である子どもや保護者そして教師が直面する問題や現実的な困難に対し、専門的な立場から指導・助言を行う人が求められています。また、事前にその困難に負けないような資質形成を図ることに指導・助言をすることも必要とされています。ガイダンスカウンセラーは、そうした必要性に応えるべく誕生しました。

そこで私たちは自分たちを次のように定義しました。

ガイダンスカウンセラーとは、保育園・幼稚園・小中学校・高等学校・中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校等において、子どもたちの学習、進路、人格・社会性、健康の面における発達を援助する教育の専門家である。

下図の主要4つの発達課題を達成するために、子どもたちだけではなく、教師や保護者なども支援の対象とします。



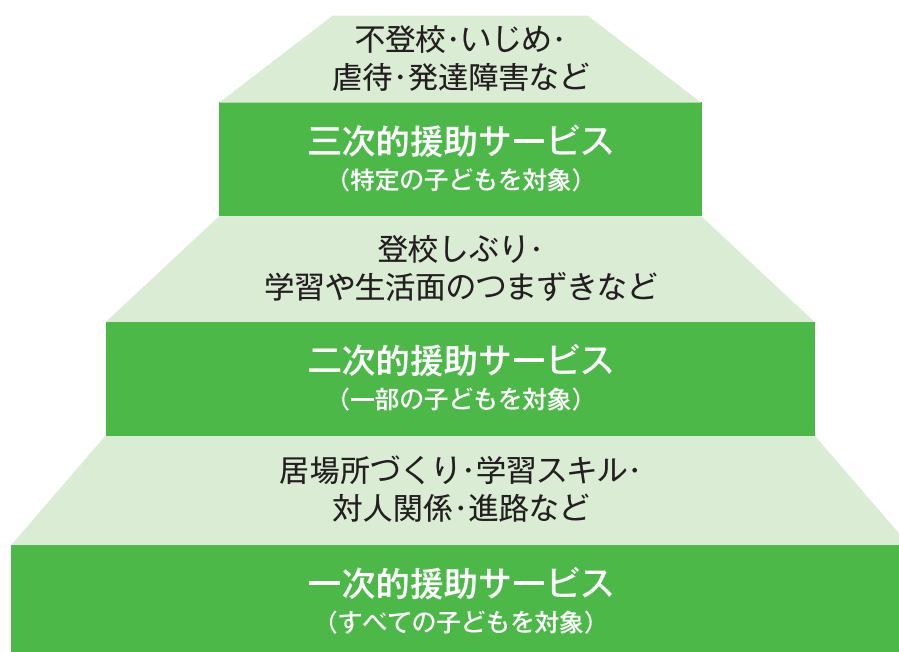
ガイダンスカウンセリングの4領域

子どもへの支援の特色

ガイダンスカウンセラーは、特定の子ども、一部の子ども、すべての子どもを相手に活動します。

下図のように、すべての子どもを対象に、その発達課題の達成を支援する活動を一次的援助サービスと呼んでいます。次に、苦戦している子どもを対象に、その子どもの援助ニーズに応じる活動を二次的援助サービスと呼んでいます。さらに不登校やいじめ、発達障害などで特別な心理・教育ニーズのある子どもに対する支援活動を三次的援助サービスと呼び、以上、3つの援助サービスの活動をガイダンスカウンセラーは、リーダーあるいはコーディネーターとして行います。

さらに地域と連携して子どもたちの支援にあたるとともに、家庭の支援も行います。



ガイダンスカウンセラーの支援の様相

(石隈利紀 1999『学校心理学』誠信書房の図を元に作成)

ガイダンスカウンセラーの主な活動例

1. アセスメント

実践例

困難を抱えている子どもを発見し、学級集団づくりの方策を立案するために、「友達に承認されているか」「嫌なことをされていないか」などを測る「学級生活満足度尺度(Q-U)」(河村茂雄)を活用して児童一人一人と学級集団の状態を把握します。また望ましい人間関係を築くために必要な対人関係力を高めるために、ソーシャルスキルについて「児童の自己評価」と「教師による評定」を行い、方針を定めます。

2. グループ対応

実践例

年度初めの不安そうな雰囲気のある学級に対し、「子どもたち一人一人が安心して友達とかかわれるあたたかいクラスづくり」をめざして、学級で人間関係づくりのふれあい活動(構成的グ

ループエンカウンターなど)を実施します。軽い身体接触を伴う「あいさつゲーム」、自分と友達の共通点を見つける「友達紹介」、無言の共同作業を通して相互理解を深める「無言ゲーム」などを通して児童相互のあたたかな人間関係を育みます。

3. 個別の対応

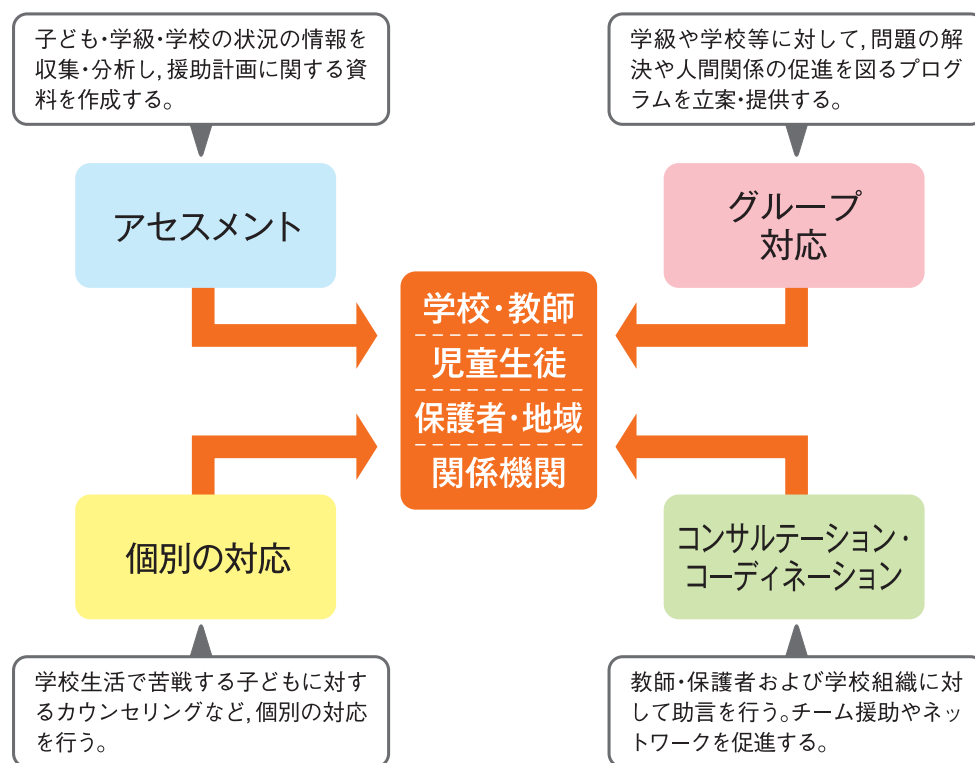
実践
例

登校しぶりが見え始めた中学生の保護者からいじめの訴えを受け、本人ならびに母親との面談を行いました。教頭が子どもに頻繁に声をかけること、いじめを見つけたら担任がその場で毅然と指導することとし、相談室と保健室を避難場所にしました。子どもと保護者へのカウンセリングを継続したところ、子どもに発達の偏りがあることがわかり、通級指導教室に通いました。いじめはなくなり、元気に高校生活を送っています。

4. コンサルテーション / コーディネーション

実践
例

学校の依頼を受けて、管理職や生徒指導部等とともに学校と生徒の課題を把握し、生徒の発達課題・生活課題を成就するための取組（ガイダンスカリキュラム）を編成します。そのために社会性を育てる参加体験型の授業を、特別活動や総合的な学習の時間に行うことを軸にして学校の教育課程を編成します。これを教職員の共通理解を得て、計画・実践・評価いわゆる PDCA サイクルで行うための助言と組織づくりの支援を行います。



ガイダンスカウンセラーが提供するサービス

I ガイダンスカウンセリングを

実践

小学校にて

スクールカウンセラー（以下、SC と略）である私は、校内のコーディネーターによるスケジュールに沿って、相談活動を実施しています。



CONSULTATION チーム援助

児童・保護者の面談だけでなく、構内巡回による授業時間、休み時間、給食時間、放課後の児童の行動観察や声かけを行い、気になった児童について放課後に教職員と情報交換や作戦会議を行い、支援方法を検討しています。2校の勤務校で開かれている教育相談部会（隔週開催）と生徒指導・校内支援委員会（毎週開催）に出席し、支援方針や支援方法に関して、SC としての考えを述べたり、カウンセリングについての情報提供等を行っています。さらに、職員会議や学年会に出席して、教師との共通理解をはかり、問題状況にある児童に対して、より具体的な支援について検討しています。



SYSTEM SUPPORT 校内研修

昨年度の校内の職員研修会において、援助ニーズの高い児童の支援について、ロールプレイを用いてチーム援助のワークショップを実施しました。その概要は以下の通りです。

- ① 6人グループをつくる
- ② 配役（管理職・担任・学年主任・養護教諭・相談員等）を決定する
- ③ ロールプレイの進め方の説明をする
- ④ 事例の簡単な説明を行う
- ⑤ ロールプレイを実施する。個人で援助シートに記入後、グループで話し合い、チームシートに記入する。
- ⑥ 援助方針・援助案を各グループごとに発表する
- ⑦ 質疑応答をし、まとめる

教師それぞれが、管理職・担任・学年主任・養護教諭・相談員等の役割になり、援助方法を修正、検討するのがねらいでした。参加した教員が「自分なら何ができるか」という当事者の視点で支援方法を検討した結果、多くの提案がありました。これまでにない具体的な方法が提案されたことで、支援の枠の広がりを感じました。

生かした SC としての実践

実践

高等学校にて

スクールカウンセラーとして、基本的には生徒・保護者との面談を実施し、担任、養護教諭、教育相談主任へのフィードバックや管理職との情報交換を行っています。



ガイダンスカリキュラム

SC は、勤務校の高校生にはコミュニケーションについて課題があると教職員と共通した問題意識をもっています。そこで、教育相談委員と協議して、今年度の新入生の一クラスで、担任がSGE（構成的グループエンカウンター）を実施しました。その際、SC は教育相談員と担任に資料を提供し、事前に実施方法について研修を行いました。



校内研修 アセスメント 広報活動

勤務校の校内研修会において、チーム支援についての職員研修を行いました。さらに、問題状況の予防的な視点から、Q-U が個人や学級集団の状況を把握する有効なアセスメントの一つであると教育相談担当教員や担任と確認し、共有することができました。その他、広報活動の一環として、生徒・保護者を対象に定期的にスクールカウンセラー通信を発行しています。

山田留美子（やまだ・るみこ）

公立小学校・公立高等学校スクールカウンセラー

※SC は、いじめの根絶の観点からも、今後は、教師との協働関係を築き、子どもたちの健全な成長促進と予防教育に貢献します。

●いじめ防止対策推進法（平成 24 年 6 月 28 日公布）

（いじめの禁止）

第 四 条 児童等は、いじめを行ってはならない。（学校におけるいじめの防止）

第十五条 学校の設置者及びその設置する学校は、児童等の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめの防止に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図らなければならない。

2 ピア・サポートプログラムに

実践

高等学校にて（静岡県立浜松江之島高等学校）

いじめ・不登校を減少させることを目的にして、ピア・サポート活動を実施しています。



KEY WORD | ガイダンスカリキュラム ピア・サポート

ピア・サポートとは、ピア＝「仲間」、サポート＝「支援・援助」、つまり「仲間による支援」を意味します。実際の活動は、生徒達が「傾聴」し、「支援」し、「思いやりを示すこと」ができるよう訓練・実践し、教師がその活動をチェックするものです。ピア・サポート活動は「トレーニング」と「サポート活動」の2つに大きく分けることができます。トレーニングは年間10回を希望者を対象に実施し、サポート活動に必要なコミュニケーションスキルを習得します。その後、そのスキルを活用してサポート活動を行います。

トレーニングは、①内容・感情の理解・伝達を目的とした「コミュニケーション訓練（傾聴・アサーショントレーニング）」、②自分がカウンセリングを行う状況における、内容・感情・願い・方法の検討を学ぶ「問題解決スキル」、③自分が仲介を行う状況における、当事者同士の合意形成・契約・内容・感情・願い・方法の検討を学ぶ「対立解消スキル」という3つの柱で構成されています。特に対立解消スキルはいじめ防止に効果があると考えられます。



KEY WORD | いじめ防止 対立解消スキル

いじめ防止では、大多数を占める傍観者を、思いやりのある仲裁者に変質させることができれば、いじめ発生に対する強力な抑止力になると考え、生徒に話し合いによって課題を解決する方法を教え、対立を収める「いじめを防ぐ対立解消スキルトレーニング」を行っています。対立解消スキルトレーニングのおおまかな展開は、以下の通りです。

① くり返し

話し手は、最近の生活を振り返り、「楽しかったこと・うれしかったこと」について話す。聞き手はくり返しをしながらこれを聞く（くり返しはキーワードだけでもよい）。

② 要約

話し手が話した内容を聞き、聞き手は「気持ち（感情）、考え・意見（思考・価値観）」を表す言葉に注目し、「あなたは…という気持ち（考え）なのですね」と要約する。

③ ロールプレイ

待ち合わせ時間に遅刻するなどといったトラブルを設定し、①、②の技法を使って対立解消を行う。

よるいじめ防止教育

トレーニング後に実施したアンケートによると、「友人がいじめられていたり，対立に巻き込まれていたら，対立解消の技術を使って仲裁したいと思いますか」との質問に，74.4 %が「そう思う」，25.6 %が「まあまあ思う」と回答していて，高い教育効果を得ています。



●いじめ防止関連掲載記事

- ・ 中日新聞，2015 年 7 月 30 日「信頼，理解深めよう中区中高生悩み相談研修会」
- ・ 産経新聞，2015 年 2 月 28 日「仲裁技術でトラブル解決県司法書士会が公開講座」
- ・ 日本教育新聞，2015 年 2 月 2 日「合宿でピア・サポート集中訓練」

山口権治（やまぐち・けんじ）
静岡県立浜松江之島高等学校教諭

3 特別支援教育におけるシス

実践 特別支援教育に関する小学校にて（北海道釧路郡）

特別支援教育を実効性のあるものとするために、組織的・計画的な特別支援教育を実践しています。



特別支援教育 システマティック・アプローチ

特別支援教育は、現状において多くの学校では十分に機能しているとはいえず、学校ごとの温度差や特別支援コーディネーターの力量にもバラツキがあると思います。公立学校では人事異動があることを考慮すると、特別支援教育のシステム化を図ることが大変重要です。システムを確立することで、組織が動き出す。組織が動き出すと教師個々の力量が向上する。すなわち、「システム → 組織 → 個々の力量」というサイクルを学校運営の中に位置付けていくということです。



アセスメント 情報交流 チーム支援

本校のシステムで、特徴的な点は以下の2つです。第一は、児童のアセスメント結果の情報交流です。具体的には、Q-Uを用いた「いじめ」「登校渋りの不適応」「ストレス耐性」「承認感」の分析、特別支援学級在籍児童と通常学級在籍児童の実態交流（発達障がい）分析、教師の観察記録や遅刻と欠席の数などが記入された「登校渋り支援表」の分析、児童理解表（K-13法で活用する表）で抽出されたチーム支援児童一覧表の分析です。これらのアセスメント情報を、教職員が共有することによって組織的支援が可能となります。第二は、特別なニーズをもった三次的支援を要する児童や保護者に対して、短期（2週間）、中期（1～2か月）、長期（学期）という時系列にそって、「誰が、どのような支援を、どこで行うか」個別の援助計画表を作成してチーム支援を展開しています。

高畠昌之（たかばたけ・まさゆき）
北海道釧路町立富原小学校教頭

テーマティック・アプローチ

特別支援教育とは

社会のルールと生きるスキルを、『認知と学習スタイルの多様化に応じた指導』を展開しながら、集団の中で全ての子どもの将来の進路を見据えて身につけさせる教育

- 学校という『環境因子』が整えば何らかの『個人因子』があっても『障害』とは捉えない

WHO(世界保健機関)の「ICFモデル」

～2001年～

障害の分類に『環境因子』を加えるという転換を図る

手足が不自由な機能不全（個人因子）があっても社会にバリアフリーが完備され、社会参加への活動が制限されないのならそれは障害ではない

自己肯定感が高い子どもを育てる

全教育活動で行う

全ての児童が対象である

特別支援教育の観点

1. 一人一人の認知を理解する
2. 一人一人の学習スタイルを知る
3. 環境を整える

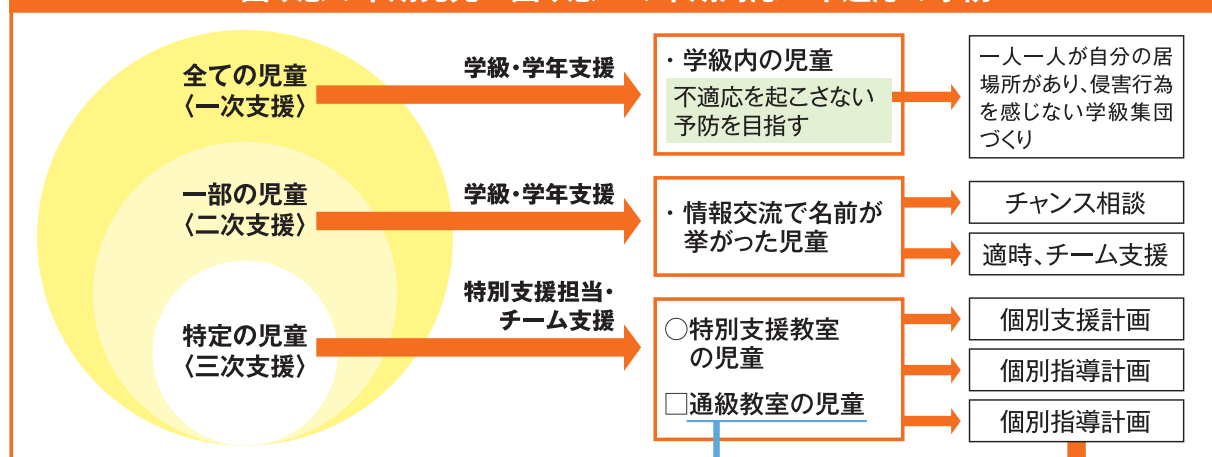
達成への方

認知(受け止め方・考え方・行動のくせ)を調べる【**観察法・面談・情報収集**】
視覚型・聴覚型・運動型【**混在型**】を調べる【**観察法・面談・多様な方法を試す**】
特性を個性(周りが不快に思わない)へ【**学級経営の工夫・SST(ソーシャルスキルトレーニング)**】

具体的な指導・支援

多様な認知に合わせた児童理解と対応【**SST・応用行動分析など**】
勉強の仕方を提示していく【**どの方法がいいか一緒に考える**】
特別扱いとせず個別に対応したルールとして受け止める学級集団づくり

困り感の早期発見・困り感への早期対応・不適応の予防



通級指導

1993年から正式な制度

通常の学級に在籍し、言語障害や難聴、情緒障害、弱視、肢体不自由、病弱などの児童を対象に特別な場で特別な教育課程によって指導を受ける制度

2006年に一部改正

『通級制の弾力化』が図られ、自閉症・学習障害・注意欠陥多動性障害も対象になる

本校の通級教室

- * 一斉指導に適應できない児童の支援（保護者の了解）
- * 教科学習・自立活動
- * 保護者との定期面談

身につけさせたい2つの力

- (1) モニタリング(メタ認知)
* 自分の認知をモニターする力
- (2) コントロールスキル(自制する方法)
* 認知を受け止めて制御する技術

認知とは…

- ・受け止め方のくせ
- ・考え方のくせ
- ・行動のくせ

計画を立てる際のポイント

- (1) 義務教育を終えた時の姿を想像する
* 発達段階を考えた計画(最終目標:就労)
- (2) スモールステップでの目標設定をする
* 短期・中期・長期で考える

特別支援教育の全体計画（釧路町立富原小学校）

4 ガイダンスカリキュラムによ

実践 学校種間連携において（埼玉県熊谷市）

社会性を育てるスキル教育を教育課程に位置づけ、計画的・系統的に実施することによって、学習基盤となる児童生徒の社会性の育成を図ります。



スキル教育 人間関係形成能力

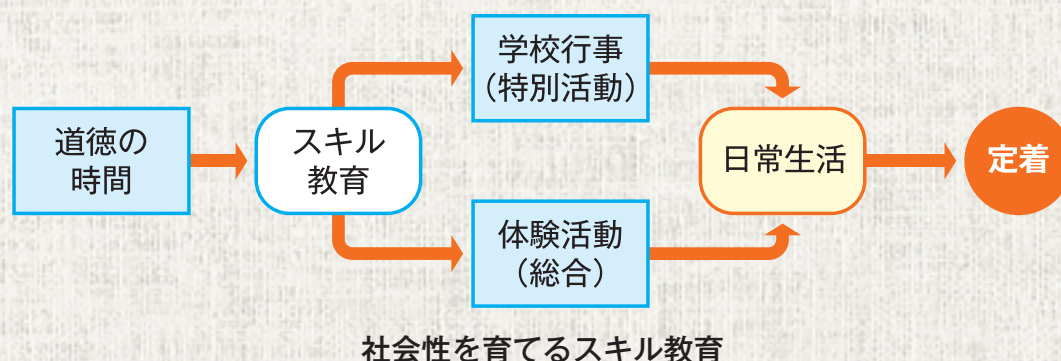
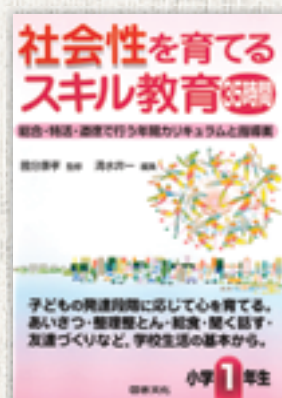
児童生徒の個性の発見・伸長，社会性や行動力の育成は，生徒指導上も学校教育の目標達成にとっても重要です。そこで，市内の2小学校と1中学校で、『社会性を育てるスキル教育』を道徳の時間や学校行事と関連づけて，児童生徒の人間関係形成能力を高める実践を行いました。注目点は，ガイダンスカウンセラーが外部から支援し，校内のガイダンスカウンセラー有資格教員が，ミドルリーダーとして実践しています。その結果，児童生徒の社会的スキルの向上だけではなく，学力の全般的な向上もみられました。



計画性・系統性 ガイダンスカリキュラム

『社会性を育てるスキル教育』とは、「コミュニケーション能力や人間関係を築く能力を身につける」ための参加体験型の計画的・系統的な授業です。例えば，小学校3年生の4月には「自己紹介の仕方」をテーマとして，自分で書いた自己紹介カードに基づいて自己紹介の練習を行ったのち，グループで実際に自己紹介を行い，相互によかったところをコメントし合うという授業を行っています。その後は5月「あいさつの仕方」，6月「上手な話の聞き方」，7月「あたたかい言葉かけ」と進みます。

『社会性を育てるスキル教育』は毎月1コマの授業が成果をうむのではなく，各学年で年間11時間（ひと月に1回程度）がそれぞれ関連する項目を扱う道徳の時間・学校行事・体験活動（総合的な学習の時間）と日常活動を通して定着させます。

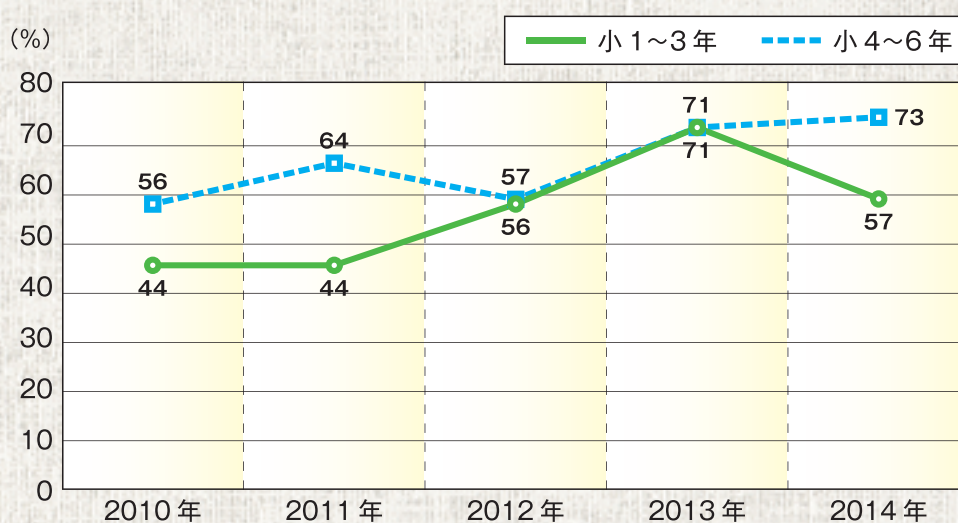


る人間関係形成能力の育成

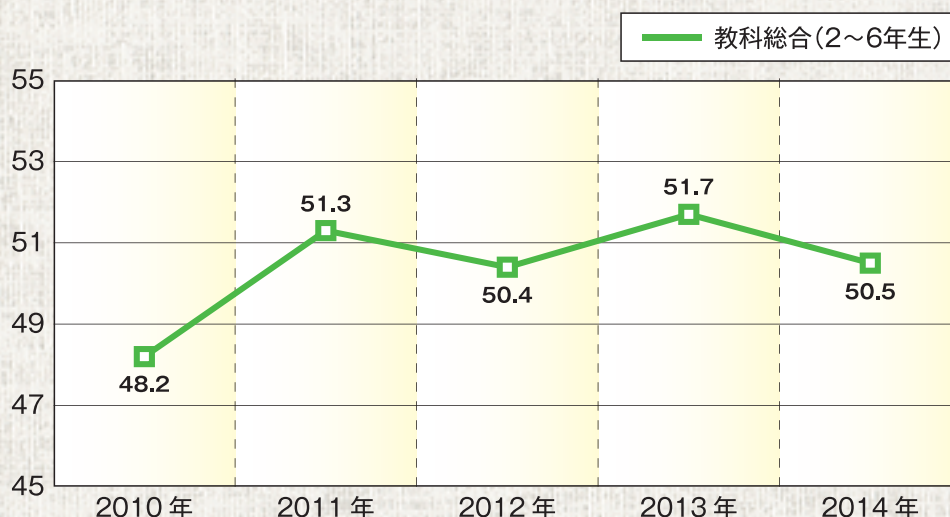


エビデンス 学力向上

本実践の2小学校と1中学校の校区は、新興住宅地と児童施設を校区内に有するなど、従来から課題を抱える校区でした。A小学校では、いじめを示す事態が起こらなくなり、Q-Uでは、学校生活に満足をしている児童（学級生活満足群）が毎年増加し、全国平均の2倍程度まで高まっています。また、標準学力検査（NRT）の結果も、実践以前の状態から上昇し、常に偏差値50以上をキープするようになっていきます。



A小学校 満足群 (%) の推移



A小学校 学力調査 NRT（偏差値）の推移

清水井一（しみず・せいいち）
東京理科大学特任教授

5 定時制高校中退予防対策事業

実践 生徒指導において（東京都教育委員会）

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課は、2015年に生徒個人の心の成長と温かいホームルーム経営による高校中退予防策として「定時制高校中退予防対策事業」を立ち上げました。同事業の実施にあたっては、早稲田大学の河村研究室に登録している講師の派遣等が依頼されました。



構成的グループエンカウンター 共感性 居場所づくり

事業目的は、「自分の気持ちや考えを適切に伝えたり、相手に思いやりをもって受け止めたりする」ことを通して「居場所」をつくります。それによって、学校やホームルームでの生徒の孤立化を防ぎ、中途退学の防止を図ろうというものです。このねらいを達成するために構成的グループエンカウンターを導入することになり、加勇田客員教授をコーディネーターとしてガイダンスカウンセラー14名が交代で担当しています。都内定時制55校に対して、この取り組みは2016年1月まで続き、次年度以降の継続が検討されています。



“ぼっち” コミュニケーション能力 自己発見

S高校では入学式の翌日が構成的グループエンカウンターでした。まずは名前の自己紹介から始めて、二人組質問ジャンケン → 四人組自己紹介 → そのチームで指足しアドジャンと進む。60分間の展開でした。ある二人の生徒は、「あーおもしろかった。私この学校でボッチにならなくて済んだよ」「あっ、オレも」。一人ぼっちの体験は辛いものですが、友達づくりに構成的グループエンカウンターは効果的です。また、5クラス150人の生徒を体育館に一堂に集めて行ったこともあります。生徒一人一人が自己を語り、それをグループのメンバーが傾聴するという活動です。ある男子生徒の振り返りカードには、次のような記載がありました。「自分は人と話すのが苦手だと思っていたけど、じっくり話をしたらそんなに苦ではなかったのが驚きだった」。このように、自己開示を通して自分の気づかない意外な面に気づくのです。

河村茂雄（かわむら・しげお）
早稲田大学教育・総合科学学術院教授

加勇田修士（かゆた・おさむ）
早稲田大学教育・総合科学学術院客員教授

原田友毛子（はらだ・ともこ）
文教大学非常勤講師

解説 問題行動予防と成長促進を担う ガイダンスカウンセラー

ガイダンスカウンセラーは、アメリカのスクールカウンセラー同様に、「範囲において総合的であり、意図において予防的であり、性質において開発的(発達の)である。」(ASCA: 米国スクール・カウンセラー協会, 中野良顯訳『スクール・カウンセリングの国家モデル—米国の能力開発型プログラムの枠組み』学文社, 2004年, P.17)



生徒指導提要 成長を促す指導 未然防止

文部科学省の『生徒指導提要』では、「生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」と定義されています。ガイダンスカウンセラーは、この目標達成のために「すべての児童生徒を対象に、個性を伸ばすことや、自身の成長に対する意欲を高めることをねらいとした」成長を促す生徒指導の担い手だといえます。ガイダンスカリキュラムを中心に、幼・保 → 小 → 中 → 高校と系統的・計画的に社会的スキルの育成や個性の発見・伸長を図ります。現在、いじめ自死の問題だけでなく、いじめ・不登校・暴力行為は、高水準で認知または発生しています。生徒指導上の問題解決においては、事後対応的取組は限界にきており、地域連携の中で計画的・系統的な未然防止と成長発達の支援が必要だと思います。その意味で、ガイダンスカウンセラーの今後の活躍が期待されています。

八並光俊 (やつなみ・みつとし)

東京理科大学大学院教授



『ガイダンスカウンセラー入門』図書文化
スクールカウンセリング推進協議会 [編著]



『ガイダンスカウンセラー実践事例集』学事出版
スクールカウンセリング推進協議会 [編著]

ガイダンスカウンセラーを知るための書籍

一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会の概要

●設立

平成 27 年 4 月 1 日（前身であるスクールカウンセリング推進協議会の設立は平成 21 年 5 月 25 日）

●目的

子どもたちが発達課題に取り組み、成長することを援助するスクールカウンセリングを有効に機能させる学校体制のあり方について検討し提言を行うとともに、スクールカウンセリングを担う諸資格の交流を促進するほか、スクールカウンセリングに関する「ガイダンスカウンセラー」の資格を認定し、スクールカウンセリングの学校教育への普及定着をはかる。

●活動目標

1. スクールカウンセラーの応募資格ならびに待遇の平等化・公平化
2. 文部科学省における「ガイダンスカウンセラー活用事業」の予算化
3. 学校教育法で設置された「指導教諭」の生徒指導・教育相談分野における指導助言の業務化
4. 学校の正規教諭として「相談指導教諭（仮称）」創設のための学校教育法の一部改正

●事業

- (1) スクールカウンセリングの有効な適用の検討及びそれに基づく活動
- (2) スクールカウンセリングを担う諸資格の交流の促進
- (3) ガイダンスカウンセラーの資格の認定
- (4) ガイダンスカウンセラーの養成と普及
- (5) シンポジウム・研修会等の開催

●理事長

國分康孝（NPO 法人日本教育カウンセラー協会会長、東京成徳大学名誉教授）

●構成団体

日本学校教育相談学会 日本学校心理士会
日本キャリア教育学会 日本教育カウンセリング学会
NPO 法人日本教育カウンセラー協会 日本カウンセリング学会
一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構日本臨床発達心理士会

●構成団体に関連する資格

資格名	人数	認定団体
学校カウンセラー	770	日本学校教育相談学会
学校心理士	3,900	一般社団法人学校心理士認定運営機構
キャリア・カウンセラー	150	日本キャリア教育学会
教育カウンセラー（初級・中級・上級）	13,000	NPO 法人日本教育カウンセラー協会
認定カウンセラー	1,000	日本カウンセリング学会
臨床発達心理士	3,500	一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構

※ H27 年 10 月現在。人数は概数

●ガイダンスカウンセラー受験資格

資格認定試験Ⅰ：資格審査対象者は、大学院修士課程を修了し、ガイダンスカウンセラーの業務に関連した科目（当協議会の指定する 4 分野について各 1 科目以上）の単位取得が認められるとともに、ガイダンスカウンセリングに関連した業務に 3 年以上就き、教員免許状を有する者。

資格認定試験Ⅱ：構成団体の認定する資格を既に有する者は、A および B の審査基準を満たすこと。

（A および B の審査基準）

- A. 4 能力（個別対応、グループ対応、アセスメント、コーディネート・コンサルテーション）すべてを有する者
B. 下記のうちいずれかの実績を有する者（1. 実務経験を 10 年以上有する者／2. 学校・地域において、生徒指導、進路指導、教育相談で主導的役割を果たしている者／3. 教育行政においてガイダンスカウンセリングに関して主導的役割を果たしている者／4. 管理職としてガイダンスカウンセリングに関して主導的役割を果たしている者／5. 著書・論文等でガイダンスカウンセリング分野で業績を有する者）

発行 2015 年 12 月 15 日
発行者 一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会
[Address] 〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15 [Tel] 03-3941-8049 [Fax] 03-3941-8116
[E-mail] info@jsca.guide [URL] http://jsca.guide
担当 渉外委員会：中村道子，加勇田修士，小沼豊，池場望，新井邦二郎，片野智治，岸俊彦，木村周，國分久子
研究委員会：八並光俊，小沼豊
デザイン 中濱健治
印刷・製作 株式会社 Sun Fuerza